

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201608		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	もえれのお家篠路・郷		
所在地	札幌市北区篠路1条2丁目 1-7		
自己評価作成日	令和3年8月24日	評価結果市町村受理日	令和3年9月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0190201608-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リハケアセンター篠路の2階にあり、事業所の西側の窓からは創成川沿いのポプラ並木が見え、商業施設の間を行き交う車も多く、賑わいを感じる場所にある。この風景を気に入られている入所者も少なくない。公園、地区センター、保育園、小学校に四方を囲まれているような立地で敷地内のバン屋(あんびしゃす・障害者支援事業所)に常時出入りする地域の方もあり、地域には広く知られ、馴染んできている。
 コロナ禍においてグループホームも感染対策を重視しつつ新しい生活のスタイルを検討しており、外部との接触を回避しつつ、外気に触れられるよう取り組んでいる。現在御家族との面会も原則玄関でのガラス越し、LINEでのビデオ通話としている。非接触での面会をより安心してゆっくりと出来るよう面談室の設置を計画している。ICTを導入しており、普段の様子を動画、写真で御家族に伝えるなど、事業所内に入ることが出来ない御家族の安心や信頼の確保に努めている。医療面では理学療法士によるリハビリ視点でのアドバイス、施術を定期的に頂き、日々の生活動作の向上に活かしている。歯科、訪問医療(主に内科)、訪問看護と連携し日々の健康管理を行っている。新型コロナの感染も想定し、万が一に備えて簡易減圧装置も準備されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームもえれのお家 篠路」は創成川通に近い場所に立地しており、大型商業施設やバス停にも近く生活の利便性が高い事業所である。室内は中庭を中心に1フロアに2ユニットがある造りで明るく開放感があり、冷暖房やリフト浴など設備面でも充実している。壁には季節を感じる温かな装飾が施されている。感染症の流行により外部との交流が難しい中、保育園児と節分の窓越し面会を行ったり発表会のDVD鑑賞をするなど子供たちとの関わりを大切にしている。運営推進会議は書面会議を開催しているが、家族などの構成メンバーに毎回アンケートを実施して意見や質問を会議に活かすなど工夫した取り組みを行っている。ケアマネジメントの面では、趣味や嗜好の変化を随時具体的に記録して日々のケアや介護計画に活かしており、全職員で利用者一人ひとりの思いや意向に寄り添った適切なケアを行っている。法人研修や内部研修も計画的に実施しており、職員の資質向上に向けて積極的に取り組んでいる。食事面では、利用者と一緒にパフェやおはぎを作ったり、うなぎや寿司の出前を取るなど、外出できない中でも食事が楽しめるように工夫している。家族との面会も難しいため、電話やラインで密に連絡を取りながら普段の様子を写真やDVDに収めて送るなど、細やかな対応は家族の安心感と信頼につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目の届く数か所に掲示している。共有しながら実践できる環境にある。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人事業所理念を基に、毎年ユニット目標を作成している。新人研修で理念を伝え、内部研修でも確認している。管理者は、理念と結び付けながら分かりやすく職員を指導することもある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民によるボランティアの受け入れや、町内化のお祭りに参加する等の交流を図っていたが、現在はコロナ禍のため思うようには実施できていない。	節分に手作りお面で窓越し面会に来てくれた保育園児に利用者がお菓子を渡したり、発表会のDVDを見せてもらうなど感染症流行時でも可能な交流を行っている。散歩で近隣住民と挨拶することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症介護指導者の資格を有しており、外部研修等を行っていたが現在は実施できていない。開設年数は浅いが、地域の方々に認知症施設と認識されており入居希望する際には見学に来られている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月毎に書面にて会議を開催している。御家族等や地域住民代表者より様々な意見を受けサービスの向上に活かしている。	書面会議を開催しているが、地域包括支援センター職員や町内会役員、家族に毎回アンケートを取り意見や質問を会議に活かしている。議事録で、感染症対策や災害時対応について報告している。意見を活かし、玄関に備えている体温計を非接触型に変更している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が対応している。生活保護の方の受け入れを行っている他、日頃から連絡をとりながら円滑に連携がとれるようにしている。	市役所から新型コロナウイルス感染症の情報をもらったり、抗原検査や実施方法について相談している。介護保険の更新手続きや、保護課の担当職員と利用者の様子について情報交換することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で委員会を立ち上げ、ユニット内から二名が代表として3か月毎オンラインでの委員会に出席、他職員に伝達している。また全職員が研修に参加し、身体拘束を行わないケアを意識しながら実践している。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した指針を整備し、新人研修や内部研修で確認している。スピーチロックの法人研修も実施している。身体拘束適正化委員会の内容は全職員がパソコンで共有しているが、全職員が議事録を読み、確認印を押すことも検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時の研修の他、勉強会を行っている。虐待が見過ごされることがないように、日々注意を払いながら関わるよう心掛けている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している入居者はいないが、今後利用する可能性を視野に入れながら情報収集や学ぶ機会を持つようしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては管理者と計画作成担当者が行っている。御家族より質問があった際には管理者に報告したのち返答し、理解や納得を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月毎に運営推進会議を書面上で開催し、意見を頂いている。玄関に意見箱を設置したり、書面や電話にて質問や意見を受けながら対応している。	運営推進会議開催時に家族アンケートを実施している。電話や来訪時に得られた意見と要望は、パソコンの申し送りや支援経過に記録している。写真にコメントを添えたり、DVDで利用者の様子を家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行うほか、常時意見を伝えられる雰囲気や環境や関係性ができ反映されている。	管理者は普段から職員の意見や提案を聞き取り、ユニット会議などで話し合っている。個別面談も年2回実施している。感染症委員会や身体拘束適正化委員会、利用者や行事などの係を各職員で分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談の場面で意見を聞き、職員が働きやすい環境作りに柔軟に対応でき改善に努めている。いつでも職員が相談しやすい環境が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は目標管理シートを作成し提出している。それぞれが目標達成できるよう研修等の周知がされている。定期的な研修の他、コロナ禍ではあるがオンライン研修に参加できる環境整備が出来ており、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でもあり相互訪問等は実施できていないが、法人内外のオンライン研修や会議を通して、可能な範囲で交流を深め質の向上に努めている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始となった入居者はいないが、入居前には本人のニーズを聞き信頼関係を気付けるよう積極的にアプローチしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や計画作成担当者が家族と面談し要望や不安がないか伺い、解決できるよう支援し関係性を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談の中で本人や家族の要望を受け止め把握し、適切な支援策を説明している。不安なくサービスを開始できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な関係性にならないよう、家事活動を一緒に行う等、共に生活をさせていただくという気持ちを意識しながら関わっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にて面会制限はあるが、施設での様子を面会時または電話等にて伝えながら、家族の意向を伺いともに支援できるよう関わっている。また、写真や動画等を見ていただけるよう工夫している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限があるため対面は難しい状況ではあるが、葉書や電話等で友人知人や馴染みのある方々との交流が途切れないよう支援している。	知人が訪ねて来て窓越しに面会したり、ハガキが届く利用者もいる。事業所で返信のハガキを準備し、投函などの支援も行っている。利用者本人の気に入っている場所の話をしながら一緒に懐かしんだり、ドライブで花見に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を職員は把握し、一人一人に合わせた支援、環境作りを行いトラブルなく生活できるようにしている。また、職員が仲介に入り孤立した生活を送ることがないように支援している。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者のご家族とは状況に応じて連絡を取り、困りごとに対して随時フォローできる体制が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合には御家族に確認したり、生活の中でできる限り把握し検討している。	話かけ方を工夫して会話や表情、行動などから思いや意向をくみ取っている。趣味や嗜好の変化は、パソコンのフェイスシートに具体的に記録して更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族から伺ったり、日々の生活の中から推察し御家族に確認する等して情報を得ている。また、入居前には本人または家族、連携機関より情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の把握する他、一日の生活リズムシートを個々に作成し、職員間で共有している。その人らしい生活を送れるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に担当職員と計画作成担当者がモニタリングを行い、定期的にカンファレンスで話し合っている。本人、家族、関係者の意見もふまえて介護計画を作成している。	全職員で評価を行い、利用者担当職員と計画作成担当者を中心に3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録は、介護計画の援助内容に沿って変化や新たな課題を記録して見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録だけでなく、日々の様子や変化、アプローチの仕方や結果等を記録し職員間で共有している。介護記録端末を利用しており、業務中はいつでも職員が記録、閲覧できる環境である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内で完結することなく、本人の思いや生活の質の向上を目指している。インフォーマルなサービスも利用しながらその人らしい生活を送れるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であるため、地域資源を活用する事は難しい場面もあるが、把握しいつでも利用できる環境にある。訪問理美容、おむつサービスや介護タクシーなど、必要に応じて利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を伺いながら訪問診療や専門病院の受診を行っている。連携を密に取りながら情報共有に努めている。	かかりつけ医を可能な限り協力医療機関として契約し、往診体制を整えている。専門医を家族と受診する時は状況に応じて書面で伝えたり、職員も同行している。往診、受診内容は個別にパソコンで管理している。	

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護を受けており、日々の心身の様子や変化を報告し助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は必要に応じて連携を図り状態の把握に努めている。また、早期退院に向けて連絡調整を管理者と行い、他職員も情報共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や御家族の意向を尊重しながら施設で可能な事を理解が得られるよう丁寧に説明し取り組んでいる。終末期を施設で過ごしたいと希望するケースには同意書を交わす、話し合いを持つ等段階的に意向確認を勧めている。職員間でも勉強会や研修に参加したり、不安なくチームとして取り組めるように環境整備を更に進めたい。	法人共通の指針に沿って重度化した場合の対応や看取りに関する事業所の方針を伝え、常時医療行為や看護が必要になった時は対応が難しいことを説明している。毎年看取り研修を実施しているが、看取りを行う場合は個別対応に関して改めて研修を行う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時の対応法を研修に参加し身につけている。緊急時のマニュアルにより、発生時は医療機関や御家族と速やかに連絡を取ることが出来る。また個々の急変時のマニュアルも必要に応じて作成し、支援に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に書面にて具体的に想定できることを含めた想定事例災害訓練を行い、発生時には速やかに対処できるよう身につけている。新人職員対応やリマインダーとしても常に危機意識を持つよう基本的な事項確認も行っている。緊急連絡網やハザードマップを掲示している。計画、実施内容は必ず運営推進会議に報告し意見を取り入れている。	感染症の流行により避難訓練を実施できないため、火災や地震、水害を想定したシミュレーションの中で、適切な対応についての意見を全職員が書面に提出し、話し合いを繰り返している。救命講習は開設時に全職員が受講しており、今後も計画的に進める予定である。	地域との協力体制を再確認し、感染症の収束状況に応じて消防署や地域住民の協力を得た避難訓練を実施するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の年輩者であることを常に念頭におき、日々一人一人に対して言葉遣いや接し方に配慮しながら関わっている。	呼びかけは基本的に「さん」づけとし、希望があれば、より親しみを込めた呼び方をしている。申し送りを利用者には聞こえないように行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに寄り添い、洋服や飲み物を選ぶ等選択肢があり決定できる支援を行っている。本人の意思が尊重できるよう一方的な関わりは行わないよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勉強会を通して、その人らしい生活を送ることは何かを考えながらそれぞれの生活に寄り添うよう支援している。職員の都合を優先してしまいがちな場面もあり、改善していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	感染対策を徹底しながら、定期的に訪問理美容を利用している。また、その日の服を選んだり、化粧や髭剃りを行い身だしなみを整えおしゃれを楽しんでいる。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事毎に食事メニューを工夫したり、リクエストを伺って出前をとり提供している。個々の状態に応じて、盛り付けや片づけなどを一緒に行う事が日常的にみられている。	食材会社より献立と食材が提供されるが、月に1回程度、寿司やうなぎ、仕出し料理などの出前を取っている。利用者が調理、後片付けを手伝い、おはぎや白玉団子を利用者と一緒にも作ることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの嗜好や嚥下の状態に合わせ、食べやすいように提供している。介護記録端末を活用し、職員間で把握しながら対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、希望者は歯科衛生士による口腔ケアを毎週受け、口腔内の保清に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は一人一人に合わせた排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。カンファレンス等で話し合い、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	誘導や介助が必要な利用者が多く、排泄状況をパソコンで管理し、パターンに沿って誘導や介助を行っている。日中は全員がトイレで排泄でき、夜間は状態に応じてベッド上で排泄用品を交換したり、ポータブルトイレを利用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンに合わせながらスムーズに排泄できるよう乳製品を意識して摂取している。腹部のマッサージや運動等で解消できるよう努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はある程度職員が決めてしまいがちになっているが、無理強いすることなく気分や体調を確認しながら対応している。また、入浴剤を使用し、ゆったりと入浴できる支援を行っている。	毎日入浴でき、各利用者が週2~3回程度入浴できる。同性介助の希望があればなるべく対応している。入浴を嫌がる場合も声かけの工夫で入浴につなげている。入浴時間帯、入浴の長さ、湯加減など利用者の希望に合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの生活リズムに応じながら対応し、安眠できる環境作りを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で理解度にばらつきがあり、勉強会や研修に参加する事で知識を深めていきたい。服薬支援については的確に行えている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みや得意な事を職員は把握し、それに合わせ、時には御家族の協力を頂きながら楽しめる場面の提供を行っている。			

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為遠出は出来ていないが、施設周辺の散策、外気浴など密を避けながら取り組んでいる。	感染症の流行により外出が難しくなっているが、できる範囲で周辺の散歩や同一法人が運営する向かいのペーカリーに出かけている。車に乗ったままでの花見にも行った。感染症収束後は以前のように活発に外出したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向により所持している方もいるが、基本的にはお小遣いは施設での預かりと管理になっている。機会があれば、可能な方は買い物等使えよう支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居前に交流があった方から手紙や電話が来ることがあり、その際には可能な範囲で対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温室度計を各部屋に設置し確認できるようになっている。毎日清掃を行い、清潔で快適な空間で生活できるよう支援している。	2階の1フロアに対称の2ユニットがあり、複数箇所でも自由に行き来できる。大きめの共用空間は中庭に面して明るく開放的で、他に小さめのリビングもある。壁に季節の装飾を飾り、家庭的な雰囲気となっている。パネルヒーターによる暖房の他にエアコンがあり、快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に一人でゆっくり過ごせるよう、小リビングを用意し食事を提供したりテレビを視聴するなど活用を行っている。入居者の関係性を把握しそれぞれがゆったりと過ごせる場の提供を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の他、必要に応じて環境整備を行い、御家族にも協力を頂きながら準備している。写真や家具を配置し、それぞれの好みに合わせながら居心地の良い生活を送れるよう支援している。	居室には備え付けのベッドがあり、利用者がテレビや戸棚、仏壇など馴染みのものを自由に持ち込んでいる。壁には時計やカレンダー、家族の写真、趣味の手作り作品などを飾り、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどの共有スペースには表札を用意しわかりやすくしている。また、必要に応じて環境整備を行い、個人が安全で自立した生活ができるよう支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201608		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	もえれのお家篠路・畔		
所在地	札幌市北区篠路1条2丁目 1-7		
自己評価作成日	令和3年8月24日	評価結果市町村受理日	令和3年9月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190201608-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リハケアセンター篠路の2階にあり、事業所の西側の窓からは創成川沿いのポプラ並木が見え、商業施設の間を歩き交う車も多く、賑わいを感じる場所にある。この風景を気に入られている入所者も少なくない。公園、地区センター、保育園、小学校に四方を囲まれているような立地で敷地内のバン屋(あんびしゃす・障害者支援事業所)に常時出入りする地域の方もあり、地域には広く知られ、馴染んできている。
コロナ禍においてグループホームも感染対策を重視しつつ新しい生活のスタイルを検討しており、外部との接触を回避しつつ、外気に触れられるよう取り組んでいる。現在御家族との面会も原則玄関でのガラス越し、LINEでのビデオ通話としている。非接触での面会をより安心してゆっくりと出来るよう面談室の設置を計画している。ICTを導入しており、普段の様子を動画、写真で御家族に伝えるなど、事業所内に入ることが出来ない御家族の安心や信頼の確保に努めている。医療面では理学療法士によるリハビリ視点でのアドバイス、施術を定期的に頂き、日々の生活動作の向上に活かしている。歯科、訪問医療(主に内科)、訪問看護と連携し日々の健康管理を行っている。新型コロナの感染も想定し、万が一に備えて簡易減圧装置も準備されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○(コロナの為) 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○(コロナの為) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所・談話室等に理念を掲げ、職員やご家族等がいつでも目を通す事が出来る環境整備を行い、ご本人・ご家族・職員で共有し理念に沿った支援が出来るよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響もあり、地域との関わりが持てない状況にあるが、運営推進会議などを通じて運営状況等を報告し地域との関わりが途切れない様に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染拡大の長期化により地域に向けた活動は行えていない。収束した際、地域に発信できる準備は出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響もあり、会議自体は開催出来ていないが、ご家族等にアンケート・意見を求め、その内容や結果を書面にて報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用状況や空室状況を市町村に報告。また、事故が発生した場合、報告書を提出し改善点などの報告をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に会議を開催し事例等を元に検討している。また、ユニット会議で身体拘束に関する研修を行い不適切につながるケアを行っていないか等を振り返り、不適切ケア・身体拘束につながらない様支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待の内容についての研修を行い虐待について学ぶ機会を設けている。また、入居者一人一人の生活歴や経済状況等も把握し事業所全体で虐待が見過ごされないよう努めている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット会議で、権利擁護について研修を行っている。今後、成年後見人制度の利用を検討している入居者様もいる為、その際は、ご本人・ご家族・施設側で話し合いをスムーズに行い、活用出来るよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を用いて必ず説明を行っている。不安点や疑問点は丁寧な説明を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族にケアプラン説明の際、要望や意見をお聞きし職員と情報共有を行い、その情報を地域の方へ発信し反映に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや定期的職員面談のほか、随時職員の意見を聞く機会を設け反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給や上位資格取得時の昇給などの給与面の他、定期面談時に今後のビジョン等聞き取りを行い、目標を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスの影響で外部研修の機会は少ないがオンライン研修の機会確保を行っている。上位資格取得の為に研修には積極的に参加の機会確保を行っている。OJTの取り組みも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で相互訪問の機会はないが、オンラインやメール等のやり取りで交流を保ち、サービスの質の向上を図っている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度か、ご本人・ご家族と面談し心身状態の把握や不安・困り事等をお聞きし不安を解消出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご本人・ご家族に今現在、不安・困りごとの話を聞き、サービスを開始する前に解決し信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に、ご本人・ご家族から心身状態をはじめ、生活歴・経済面など様々な情報を把握しその方が必要としているサービスを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様が一緒に食事を作ったり、洗濯たたみ等を行っている。また、入居者様から、昔の知識を教えてもらうなど共生している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された際に、ご家族から生活歴などご本人に関する情報をお聞きし支援に活かしている。コロナ禍で、ご家族との直接の面会や外出などの機会は減っているが、情報提供や映像・写真などを通してご家族と共にご本人を支える支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響もあり、馴染みの関係のある場所には行く事が難しい状況になっているが、馴染みの場所について思い出話をして情報を引き出しその後の支援に活かしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状によってトラブルが発生する事も多いため、関係性が保たれる様、職員が介入している。また、重度の認知症状がある方は孤立する事も多い為、職員が介入し入居者様同士で関わりが持てる様に配慮している。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した後も何かあれば連絡をして、入居者様の状況をお聞きしたり、ご家族には困りごとは無いかお聞きしたりしてサービスが終了しても断ち切ることがないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の会話の中で、希望や要望をくみ取り職員で情報共有を行ったり、ユニット会議で検討し希望や要望に沿った支援が出来るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後に入居者様・ご家族・友人など馴染みの関係がある方からお話を聞き職員で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状態やご本人の過ごし方について記録に残しモニタリング・アセスメントしご本人が出来る能力について検討しその能力が発揮出来るよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ユニット会議前にモニタリングを実施してもらい会議の際に支援方法の見直し・変更などを話し合い、ご本人・ご家族・医療機関・専門職に意見を求め検討し計画書原案を作成しご本人・ご家族に同意を頂き本案としている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間、心身状態や活動内容・受診の内容などの個別記録を入力し職員が情報共有し支援の統一やモニタリング・アセスメントに活用しケアプランを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・ご家族様のニーズに対応できる様にフォーマルやインフォーマルなサービスを活用できるよう提案させていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響もあり、以前の様な社会資源活用はできていないが、心身の安定を図る訪問診療やおしゃれを楽しむ訪問理美容などコロナ禍でありながらも楽しく生活出来るよう工夫をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名全員が訪問診療を受け、心身状態を報告し必要に応じて医師や看護師から指導や助言を受けている。入居様の中には、ご家族の希望で定期的に病院受診されている方もおり、その方の希望に沿った対応をしている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護を受け心身状態の報告をし、必要に応じて処置や指導・助言を受けている。また、訪問看護の情報は医療機関に報告し連携が取れる体制作りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様の心身状態の情報を病院へ報告している。また、治療経過などを確認し早期に退院が出来るように環境の整備などを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年の時点で、ご本人やご家族に終末期に対する意向をお聞きし記録している。ご本人・ご家族の希望や要望に合わせグループホームでの終末期のあり方や医療機関との連携についてなどご家族と話しをし同じ方向性で支援出来るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送時の手順や応急処置などの方法を研修を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナの影響もあり、地域の方が参加しての訓練は実施されていないが、書面にて災害時に何が必要か？避難の手順などの振り返りや確認をし知識を身につけている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の認知症状に合わせて、声掛けの工夫をしたり選択しやすい空間作りや配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の入居者様同士の会話や職員との会話の中で本人の思いや希望・要望などを表出出来るようその方に合った言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナの影響もあり外出したいなどの要望には応えることは出来ていないが、その日の体調や気分によって施設内で活動をしたり、ゆっくり過ごすなど無理強いなどせず生活をお送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液を使用したり、洋服を選んで身だしなみを楽しんでいる。自身で身だしなみをする事が困難な入居者様には髪の毛をセットしたり、馴染みのシャンプーなど使用しおしゃれを楽しんでいる。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	生活の中で嗜好品や嫌いな物をお聞きし食事を楽しめるように工夫したり、入居者様と一緒に盛り付けを行うなど食事の準備をしたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の考えたメニューを元に食事を調理している。その方の疾患や嚥下状態に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け・誘導を行い義歯洗浄や歯磨きを行っている。不十分な箇所は支援している。また、訪問歯科に依頼し必要に応じて治療を受けたり週に1度歯科衛生士による口腔ケアを実施し口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンのアセスメントを行い、個々の排泄パターンを把握し、会議などで検討を行いトイレ誘導や声掛けを行い排泄の自立に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を積極的に取り入れたり腹部をマッサージするなどし、出来るだけ下剤を使用しない工夫を行っているが改善されない場合も多く医療機関に報告し下剤調整を行い、便秘解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・時間設定はしておらず、いつでも入浴が楽しめる工夫をしている。また、入浴を楽しんでもらえるように入浴剤を取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝時間・自室の明るさ・温度・服装などを把握し安眠・休息が出来るよう環境作りを行っている。また、静かな環境で過ごしてもらえるように職員の声やテレビの音などにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報についてのファイルを作成し職員が確認できるようにしている。疾患と薬の必要性についても研修等で学んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々それぞれに出来る力を見極め、新聞たため・茶碗拭きなどの家事を役割として行っている。余暇活動では音楽鑑賞・花札・オセロなど楽しんでいる。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナの影響があり、外出する機会がないが、外出に対する要望はあるため外出が出来る状況になれば外出の機会を設けていく。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、大きなお金はご家族や施設で管理しているが、小銭程度の金銭管理はご家族了承のもと、自己管理し、時々ジュースを購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたい等の要望があれば、ご家族に連絡し近況を話し楽しい時間を過ごしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の明るさ・温度等に配慮したり、トイレには目印を付けわかりやすく工夫している。また、日付がわかるようカレンダーを付けたり季節感を感じて頂けるよう飾り付けを入居者様と職員で作成し環境作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごすのが好きな方には、集団での空間に無理強いしない程度に声掛け行っている。また、リビングで一人の空間が保てるようソファ位置や角度などに配慮・工夫し一人の時間を大切にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や日用品使用する事により出来る能力を発揮できている事もあり、長年使用しているものに関して安心につながっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で出来る事・支援が必要な事を見極め職員が統一した支援が出来るよう情報共有し出来る能力を発揮できるよう努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームもえれのお家篠路郷・畔

作成日：令和 3年 9月 21日

市町村受理日：令和 3年 9月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 地域との協力体制を再確認し、感染症の収束状況に応じて消防署や地域住民の協力を得た避難訓練を実施するようにしたい。 コロナ禍に置いて集合型の訓練が出来ない中、地域住民の協力や理解を継続的に得ることが困難になっている。	事業所近隣に住居がある職員及びその家族も地域住民として捉え、火事、災害時にどの程度の協力が得られるか把握する。	全職員を対象に家族等に非常時に協力を得られる方がいるかどうかの様にしたら協力を得られやすいか等をアンケート等でリサーチし、把握できた協力員にどのような事を協力していただきたいかあらかじめ連絡しお願いしておく。 家族員、事情が変わることも考えられるため定期的に協力体制の維持について意思確認も含め継続的、定期的な確認をする。	今年度中に初回を行う
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。